

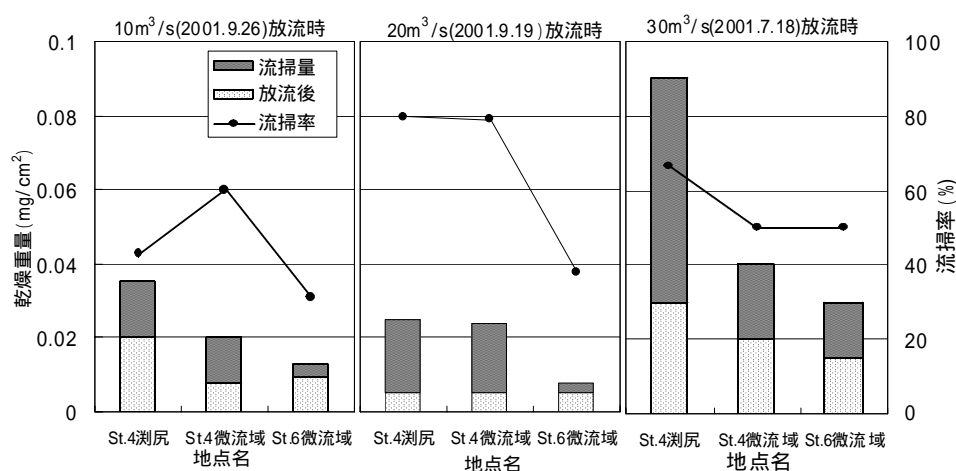
1. 平成13年度 弾力的管理試験による河川現況の改善効果事例

(1) フラッシュ放流で河床堆積物に対し効果がみられた例

寒河江ダム（東北地方整備局）

- (1)活用目的：河床に堆積したシルトの流掃
- (2)活用実績：ダム下流5kmの減水区間に対して6月16日～10月31日の活用期間に、140.0万³を活用し、維持流量(月岡橋地点【ダム下流1.0km】)1.2³/sに対してフラッシュ放流(10、20、30³/s、30分～1時間)を16回実施しました。
- (3)活用結果：河床に堆積したシルトは10³/sのフラッシュ放流で約半分が流掃でき、20³/s、30³/sとピーク放流量が増加するに従い、より流掃効果が上がりました。

【フラッシュ放流前後の付着泥 流掃率(%) = 掃流量 / フラッシュ放流前の付着泥量】



St.4:月岡橋地点(ダム下流1.0km) 淵尻:淵から瀬に移るところの淵側
 St.6:本道寺床止工地点(ダム下流1.7km) 微流域:淵から瀬に移った瀬側

(2) フラッシュ放流でよどみ水に対し効果がみられた例

三春ダム（東北地方整備局）

- (1)活用目的：景観阻害・臭気の発生の原因となっているよどみ水の流掃
- (2)活用実績：ダム下流8.5kmの減水区間に対して6月11日～10月10日の活用期間に、225.5万³を活用し、維持流量(赤沼地点【ダム下流6.6km】)0.91³/sに対してフラッシュ放流(20³/s、2時間)を11回実施しました。
- (3)活用結果：フラッシュ放流により河床の堆積物及び水面の浮遊物の流掃でき、水の臭気及び景観阻害の解消もできました。

【放流前後のよどみの表面写真(ダム下流2.0km地点)】



(3) 維持流量の増量放流で河川景観に対し効果がみられた例

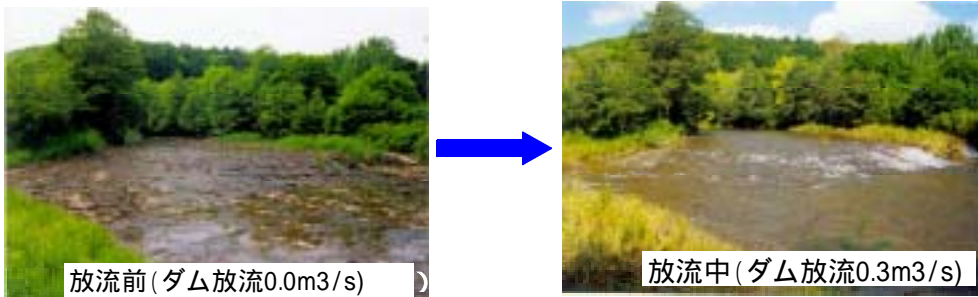
漁川ダム (北海道開発局)

(1) 活用目的 : 河川景観の向上

(2) 活用実績 : ダム下流10.2kmの無水・減水区間に対して7月14日～9月10日の活用期間に、101.0万³を活用し、ダムから0.3m³/sの維持流量放流を延べ39日間実施しました。

(3) 活用結果 : 放流中には印象的な波立ちや小さな落水ができるなど景観上評価できる変化が多数みられ、見かけの川幅と水面幅の比 (W / B 値) は0.09～0.40増加しました。また、ダム湖及び漁側周辺の観光客・利用者にアンケートを行った結果、748人から回答が得られ、活用放流前・中で景観が『十分に回復した』または『やや回復した』と回答した人は全体の93%でした。また、今後も活用放流を『続けてほしい』と回答した人は全体の94%であったことから、景観の改善が確認できました。

【減水区間の活用放流前・中の景観 (盤尻地点 [ダム下流5.0km])



(4) 維持流量の増量放流で魚類の生息場に対し効果がみられた例

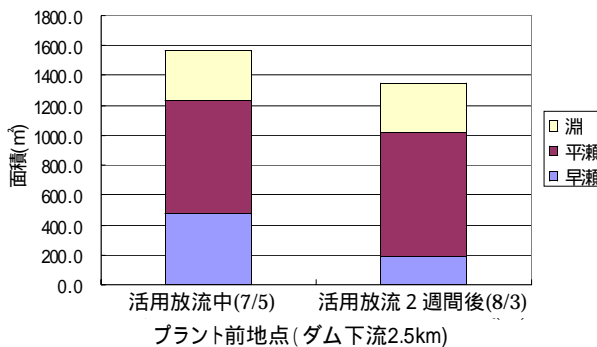
真名川ダム (近畿地方整備局)

(1) 活用目的 : アユの生息場の環境改善

(2) 活用実績 : ダム下流3.0kmの減水区間に対して7月1日～9月30日の活用期間に、102.0万³を活用し、維持流量 (ダム直下放流量) 0.28m³/sに対して1.0m³/sの維持流量放流を延べ16日間実施しました。

(3) 活用結果 : 活用放流中にダム下流の減水区間において早瀬の分布面積が増加しました。魚類調査の結果、生息数は放流前・中・後で差はありませんでしたが、はみ跡については放流中がもっとも広く確認できました。

【活用放流中・後の各河床型の面積変化】



【アユのはみ跡】

